

# 7 リスク感度向上に向けた研究 — 「自分ゴト化」の効果に着目して —

小倉 有紗

## 1 はじめに

本研究では、「リスク情報を読む」という間接経験を通して、リスク感度の向上が可能かどうかについて検討しました。実験の結果、リスク情報を自分に置き換えて考える、つまり自分ゴト化して考える傾向の強い参加者は、リスク情報をもとにリスクについて学習し、それをリスクの発見に活かすことができていました。しかし、自分ゴト化して考える傾向が低い参加者に対しては、「単に自己に置き換えて考えるように促しただけでは、リスク情報からの学習を促すことが困難である」ということが示唆されました。

## 2 「自分ゴト化」と「リスク感度」の関係

本研究では、他山の石や不安全事故(ここでは「リスク情報」と呼びます)の資料などを読み、事故の原因について学んだ後で、それを活かして、異なる場面でリスクを発見することができることを「リスク感度の向上」と捉えて検討を行いました。その際、「リスク感度向上」は、特に「リスク情報を自分ゴト化して考えるかどうか」に影響されるのではないかと考え、以下の2つの仮説を立てました。

仮説1 … 普段から自分ゴト化して考える傾向の高い人は、与えられたリスク情報を活かして、多くのリスクを発見することが出来る。

仮説2 … リスク情報を提示された際に、自分ゴト化して考えるように指示された場合には、与えられたリスク情報を活かして、多くのリスクを発見することが出来る。

仮説を検証するため、就労している一般成人を対象に、イラストを見ながら事故に結びつく可能性のあるリスクを探してもらう「リスク発見課題」を用いて実験を行いました。なお、実施に際しては、事前に倫理委員会の承認を得ました。

本稿では、若年者(20~34歳、99名)の結果を紹介します。分析の結果、仮説1については予想通りの結果が得られました。つまり、自分ゴト化する傾向の高い人は、より多くのリスクを発見できていました(図1)。一方、仮説2に関して、自分ゴト化して考えるよう指示が与えられたかどうかによるリスク発見課題の成績の変化は確認できませんでした(図2)。

図1 仮説1の検証結果

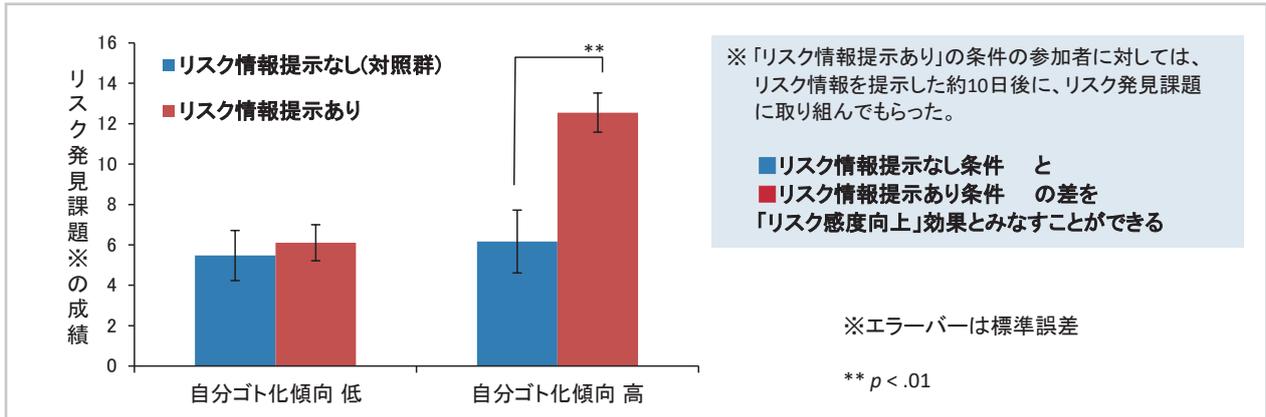
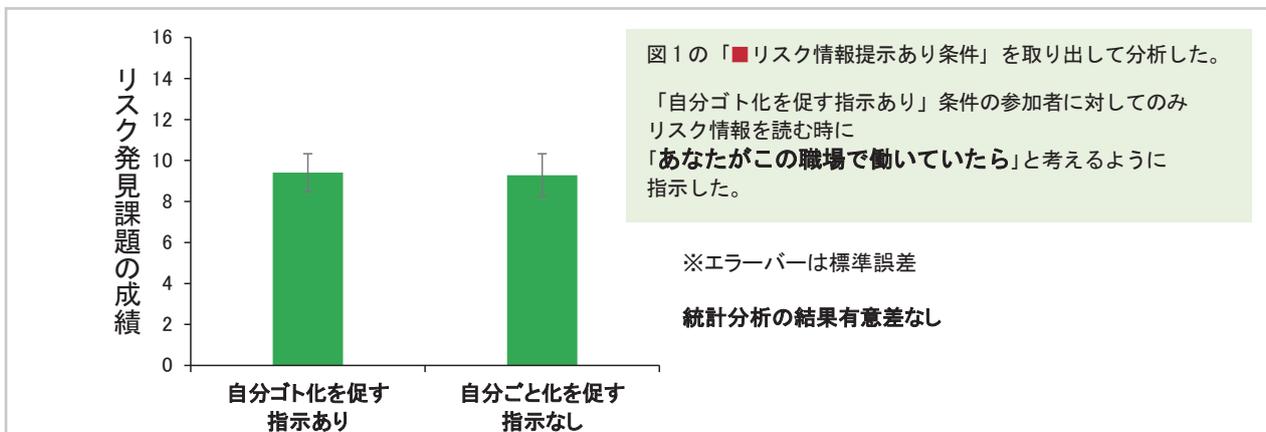


図2 仮説2の検証結果



仮説1の検証結果から、「自分ゴト化傾向」を高める、つまり、日頃からリスク情報に触れる際には自分ゴト化して考えるような習慣を身につけることは、リスク感度を高める可能性があると言えます。しかし、仮説2の検証結果から、外から「自分ゴト化して考えなさい」と指示されるだけでは、効果が得られない場合があることも示唆されました。

### 3 自分ゴト化傾向と心理的に安全な職場・チームとの関係

組織やチーム内でのものの言いやすさを表す概念に心理的安全性があります。仮説1で用いた個人の「自分ゴト化傾向」の得点と、その人が自職場に対して感じている「心理的安全性」評価得点の間には、正の相関がみられました。心理的に安全なチームに所属している人は、リスク情報を自発的に自分ゴト化して捉える傾向が高い可能性があります。

### 4 おわりに

安全研究所では、今後も「リスク感度向上」を目指した研究を継続し、様々な側面からリスク感度を高め、それにより安全性向上につなげることを目指します。

(注) 筆者は2021年度から2023年度まで、大学院の社会人課程に在籍し、「リスク感度向上」をテーマに研究を行いました。本稿は、その内容の一部を紹介するものです。